



AWS クラウド移行のためのアプリケーションポートフォリオ評価戦略

AWS 規範ガイド



AWS 規範ガイド: AWS クラウド移行のためのアプリケーションポートフォリオ評価戦略

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は、Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

序章	1
概要	1
目標とするビジネス成果	4
方法論とアプローチ	5
ポートフォリオレベルの評価	5
アプリケーションレベルの評価	5
発見の加速と初期計画	6
大まかな目標とアクション	7
結果	8
ベストプラクティス	8
優先順位付けされたアプリケーション評価	9
大まかな目標とアクション	9
結果	10
ベストプラクティス	11
ポートフォリオ分析と移行計画	11
大まかな目標とアクション	11
結果	13
ベストプラクティス	13
継続的な評価と改善	14
大まかな目標とアクション	14
結果	14
ベストプラクティス	15
次のステップ	16
リソース	17
ドキュメント履歴	18
用語集	19
#	19
A	20
B	22
C	24
D	28
E	31
F	34
G	35

H	36
I	38
L	40
M	41
O	45
P	48
Q	51
R	51
S	54
T	58
U	59
V	60
W	60
Z	61
.....	lxii

AWS クラウド移行のアプリケーションポートフォリオ評価戦略

ドイツのゴンカルブスとマーク・バーナー、アマゾン ウェブ サービス (AWS)

2024 年 5 月 ([ドキュメント履歴](#))

アプリケーションと関連インフラストラクチャをクラウドに移行するには、IT アセットを段階的に検出して分析するための戦略的かつ系統的なアプローチが必要です。その後、これらの分析を使用して、移行プログラムとビジネストランスフォーメーションを実装するための信頼性の高い移行ウェブプランを作成します。このアマゾン ウェブ サービス (AWS) 規範ガイド戦略は、アプリケーションポートフォリオを正常に評価するための主要な段階を理解するのに役立ちます。これには、以下が含まれます。

- 主要な利害関係者と既存のデータソースの特定
- 自動検出ツールの実装
- アプリケーションポートフォリオデータセットの段階的な強化
- アプリケーションの優先順位付け
- 移行ウェブプランの確立
- ポートフォリオの継続的な評価

この戦略は、詳細なハウツーガイドを含む [AWS クラウド移行用のアプリケーションポートフォリオ評価ガイド](#) で補完されています。

概要

アプリケーションのポートフォリオの移行とモダナイズを計画する場合、あらゆる規模の組織は、現在の IT 資産を段階的に再発見して分析する必要があります。この戦略のプロアクティブかつプログレッシブなアプローチでは、アプリケーションとインフラストラクチャ (コンピューティング、ストレージ、ネットワーク) に関するすべてのデータを前もって実行する必要があるわけではないことを認識しています。最初は複雑な取り組みのように見えますが、定義されたアプローチを適用することで、具体的な結果を持つ小さなステップに分けることができます。

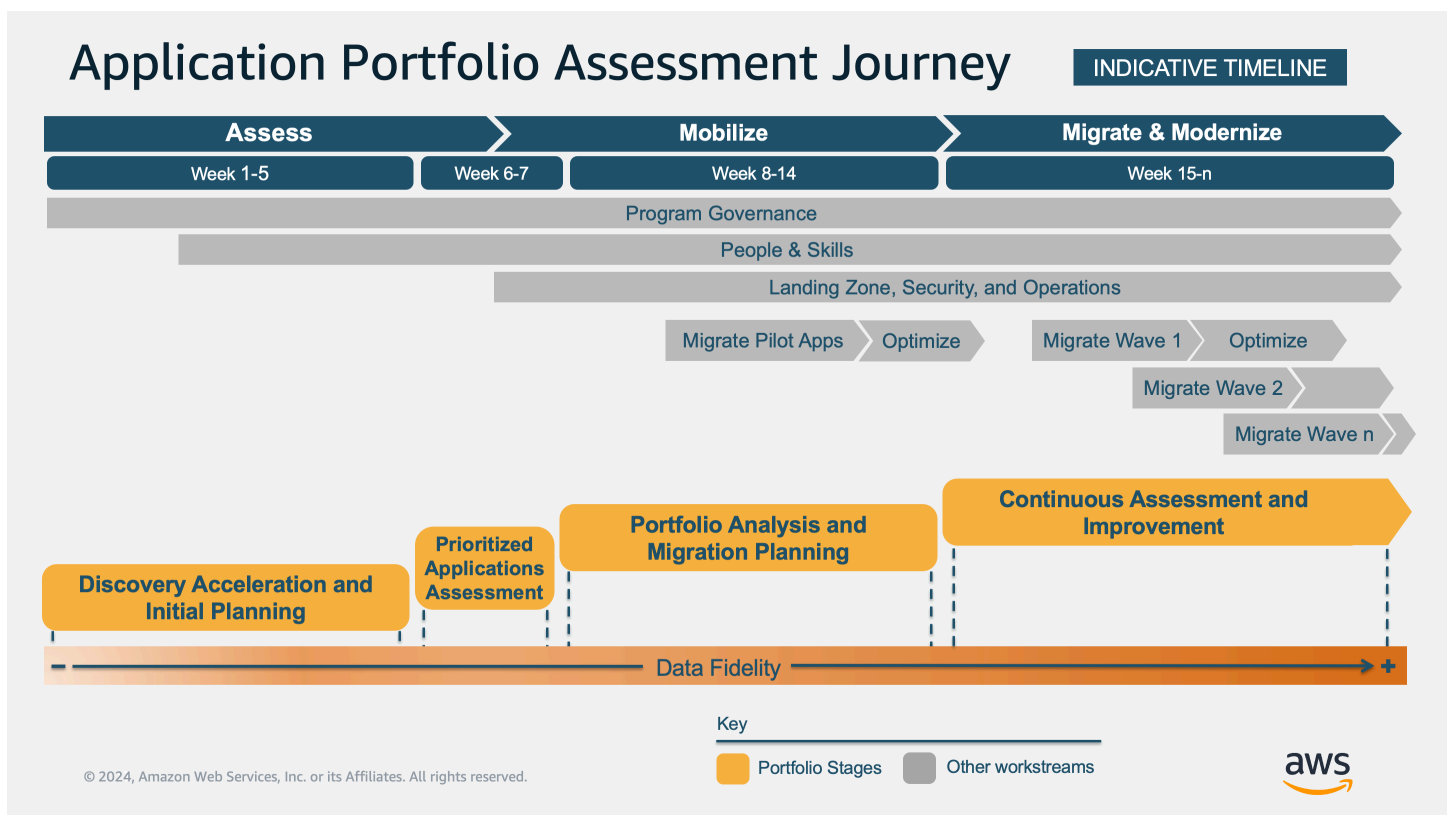
アプリケーションポートフォリオの大まかな評価とは、アプリケーション、インフラストラクチャ、ビジネスコンテキストデータを収集して、ポートフォリオをクラウドに移行するための検出、分析、

計画を行うプロセスです。評価アクティビティは、長期実行されるクラウドプログラムに着手するビジネスにとって重要です。これは、そのジャーニーの性質にはリスクとコストが伴うためです。クラウドに移行しているアプリケーションだけでなく、ビジネス自体も変革されています。したがって、先に進むことを決定してから実際の移行を有効にするまで、データベースの分析が重要です。分析はプロセスに情報を提供し、リスクとコストを削減し、ビジネスと IT の優先順位を調整し、ビジネス成果を加速します。

アプリケーションポートフォリオの評価は通常、移行の初期段階に関連付けられます。これは、ビジネスケースに通知し、初期計画を作成するためのデータと分析が強く必要である場合です。ただし、初期段階の後、アプリケーションとインフラストラクチャの評価は、長時間実行されるプログラムのライフサイクル全体にわたる継続的でインタラクティブな一連のアクティビティになります。段階的および継続的な評価アプローチでは、データ量と忠実度のレベルが異なるため、移行されるまでポートフォリオの理解が強化されます。次に、このアプローチでは、さらなる最適化とモダナイゼーションの評価に焦点を当てます。

ガバナンス、人材とスキル、ランディングゾーン、セキュリティ、運用など、その他の移行プログラムアクティビティは、アプリケーションポートフォリオの評価から得られるデータと分析に依存しています。例えば、移行プログラムの動員、コストの見積もり、ビジネスケースの作成には、アプリケーションポートフォリオの明確な理解が必要です。また、AWS 基盤を形成したり、現在の AWS 環境を拡張したりするプラットフォームチームには、設計を作成および実装するためのポートフォリオデータが必要です。移行チームは同じデータを使用して、パターンの開発、カットオーバーランブックの確立、移行ツールの定義を行います。

次の図は、ポートフォリオ評価のステージが移行の AWS フェーズにどのように対応しているかを示しています。ディスカバリーアクセラレーションと初期計画段階は、通常は最初の 5 週間に評価段階で始まります。優先順位付けされたアプリケーション評価は、6 週間目と 7 週間目に評価フェーズと動員フェーズにまたがります。ポートフォリオ分析と移行計画の段階は、第 8~14 週の動員段階で行われます。継続的な評価と改善の段階は、移行とモダナイズの段階で、第 15 週から移行プログラムの終了まで行われます。このタイムラインは参考です。ステージの実際の期間は、プログラム組織全体によって異なります。



IT アセットや依存関係の up-to-date インベントリの維持など、長期的なポートフォリオ評価の結果は、ジャーニー全体を通して一定に保たれます。ただし、データ要件、特定の目的、主要な利害関係者は、ステージごとに異なります。この戦略では、ポートフォリオジャーニーは、目先のポートフォリオジョブのデータ要件に沿った 4 つの主要な段階として表されます。

1. 発見の促進と初期計画 — ポートフォリオの現在の理解の更新、方向性のあるビジネスケースの作成、移行のための基本合理化モデルの確立、初期移行候補の特定
2. 優先順位付けされたアプリケーション評価 — 移行エクスペリエンスを提供し、クラウド基盤を確立 time-to-value することで、短期的に移行できる優先順位付けされたアプリケーションの詳細な評価、初期設計、移行戦略を実行することで、を削減できます。
3. ポートフォリオ分析と移行計画 — データセットの反復的な強化、データギャップの解消、ビジネスケースの進化、信頼性の高い移行ウェブプランの作成により、アプリケーションポートフォリオの完全かつ up-to-date 明確なビューを構築します。
4. 継続的な評価と改善 — 移行ウェブごとに詳細なアプリケーションとテクノロジーの評価を作成し、移行ウェブ計画を繰り返し、移行されたワークロードの最適化とモダナイゼーションをさらに評価することで、大規模な移行を可能にします。

目標とするビジネス成果

- アプリケーション、インフラストラクチャ、依存関係の完全なインベントリを取得します。
- 詳細な評価のためのパイロットアプリケーションの早期特定、または初期移行候補。詳細な評価には、初期ターゲットアーキテクチャ設計と移行戦略が含まれます。
- 定義されたアプリケーションの優先順位付け基準と 6 Rs 戦略決定ツリーに基づく移行のポートフォリオ合理化。
- ポートフォリオ全体の信頼性の高いアプリケーション移行ウェーブプランの作成。
- 移行のためのウェーブごとの詳細なアプリケーションとテクノロジーの評価。
- 移行したワークロードをさらに最適化およびモダナイズする機会の詳細な評価。

方法論とアプローチ

アプリケーションポートフォリオ評価の戦略的アプローチは、他のプログラムのワークストリームと並行して実行される一連のステージを確立することです。これらの段階は、ポートフォリオレベルとアプリケーションレベルの2つの主要なレベルをピボットしながら、アプリケーションとインフラストラクチャのデータを徐々に収集して分析します。

ポートフォリオレベルの評価

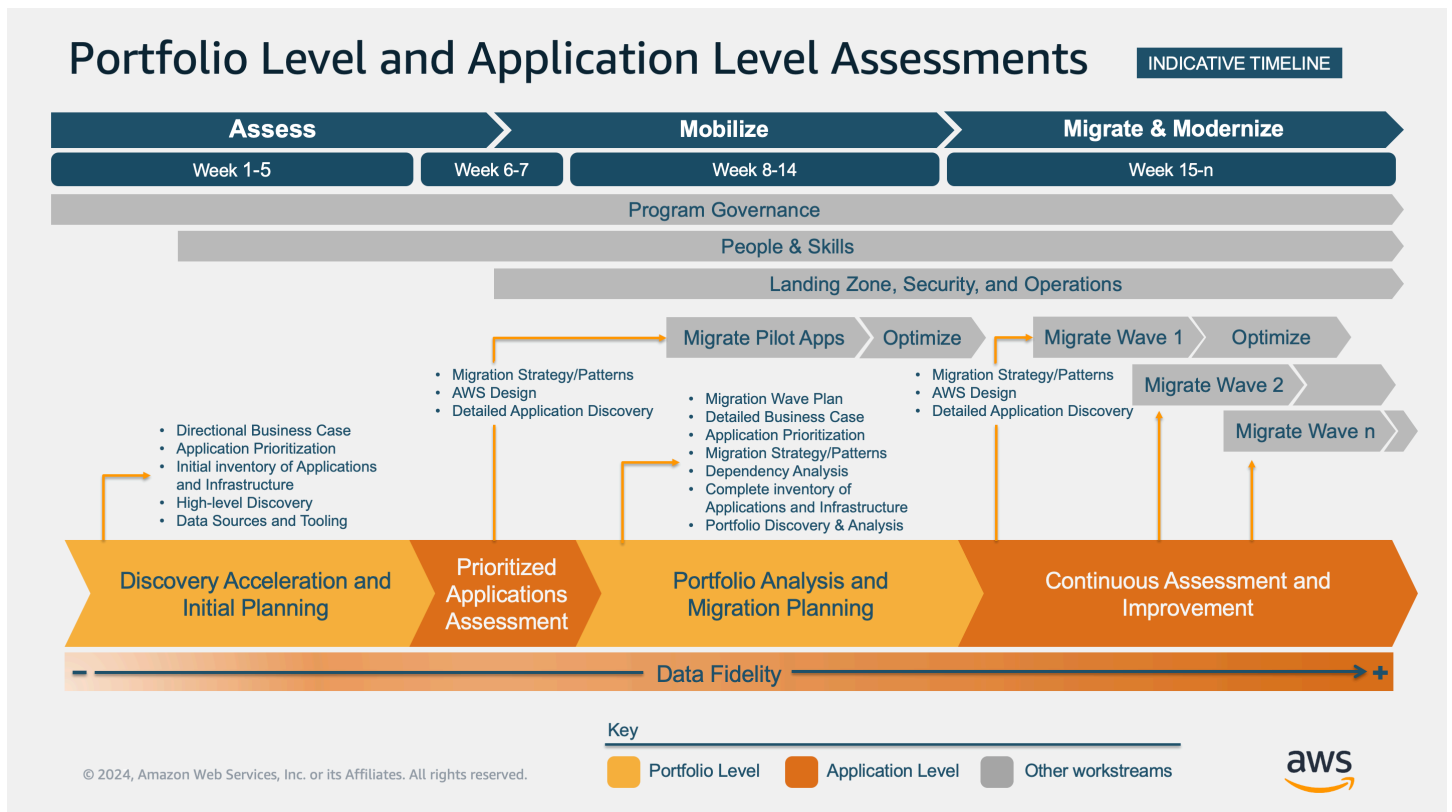
ポートフォリオレベルの評価では、アプリケーションとインフラストラクチャから一般データを収集して分析し、ポートフォリオ全体の大まかなビューを取得することに重点を置いています。このビューには、アプリケーション名、環境、製品バージョン、ビジネスおよび技術的な重要度、パフォーマンスと使用率のメトリクスなど、高レベルの技術的およびビジネス上の属性が含まれます。これは、優先順位とプログラムの範囲を理解し、高い信頼性の計画を作成し、ポートフォリオを管理し、ビジネスケースを通知する上で重要です。

アプリケーションレベルの評価

アプリケーションレベルの評価では、各アプリケーションのアーキテクチャとテクノロジーに焦点を当てます。これには、AWS 設計の作成と、クラウドへの移行とさらなる最適化をサポートする移行戦略とパターンの定義が含まれます。このタイプの評価は通常時間がかかり、プロジェクトのライフサイクルを通じて移行の波に合わせて一連の小さなチャンクでアプローチされます。

移行日が近づくにつれて、セキュリティ、運用、インフラストラクチャのデプロイ、移行アクティビティを通知するには、詳細なアプリケーション情報がテクノロジーレベルまで必要です。したがって、アプリケーションレベルの詳細な検出は、短期的に移行される可能性のあるアプリケーションを対象としています。その後、プログラムのライフサイクル全体および進行中の移行と並行して、次のアプリケーショングループに対して、わずかに重複した順序で詳細な検出が実行されます。

次の図は、評価の各段階における主要なアクティビティと、ポートフォリオレベルの評価 (データソースの識別、高レベルの検出、初期インベントリ、優先順位付け、方向性のあるビジネスケース) とアプリケーションレベルの評価 (詳細な検出、AWS 設計、移行戦略) の間でどのようにピボットされるかを示しています。ポートフォリオレベルとアプリケーションレベルの評価は、必要な情報の幅と深さを表します。



発見の加速と初期計画

この段階のポートフォリオ評価は、クラウドジャーニーの早い段階で行われます。通常、アプリケーションの既存のポートフォリオをクラウドに移行するか、探索フェーズ中に実行します。ディスカバリーアクセラレーションと初期計画段階では、次の点に焦点を当てます。

- ビジネスドライバーについて
- 既存のデータソースの特定
- 自動検出ツールの必要性の評価
- アプリケーションの優先順位付けと移行戦略の選択のためのベースモデルを確立する

これらのアクティビティは、次のことにつながります。

- ポートフォリオの事前分析
- 初期移行候補の特定
- 移行のための方向性のあるビジネスケースの作成
- 初期計画の概要。

重要なのは、このステージのステークホルダーが誰であるか、また、今後どのようなデータ要件があるかを理解することです。ステークホルダーは、取締役や CxOs、ビジネスユニットのリーダー、上級マネージャー、アプリケーションオーナーまで多岐にわたります。

ヒント：詳細とガイダンスについては、[AWS クラウド移行用のアプリケーションポートフォリオ評価ガイド](#)の関連セクションを参照してください。

大まかな目標とアクション

- 利害関係者を決定する — 移行の影響を受けるのは誰か？ 意思決定者は誰ですか？ この移行のメリットを受けるのは誰ですか？ 移行の実行を担当するのは誰ですか？
- ビジネス推進要因の特定 — 移行の結果としてどのようなビジネス成果と目標が求められていますか (例えば、ビジネストランスフォーメーション、コスト削減、俊敏性)。この情報は、移行戦略と優先順位付けの重要な決定要因になります。
- 既存のデータソースの特定 — 人材、ツール、ドキュメントなど、既存のデータソースを特定して文書化します。各ソースに信頼レベルを割り当てます。例えば、プログラムによるソースや自動化されたソースは、組織の知識やドキュメントよりも信頼されています。時間の経過とともに、信頼度の低いデータソースは、信頼度の高いデータソースに置き換えられます。
- アプリケーションとインフラストラクチャの初期インベントリの構築 — アプリケーション名、主要な機能、重要度、IT 環境、高レベルのコンプライアンスと規制要件、既知の依存関係を特定します。どの IT アセットがアプリケーションに関連付けられていますか？ 製品名とバージョン、過去のパフォーマンスデータ、既知の問題、リスクを特定します。
- データギャップと検出ニーズの特定 — データギャップを分析し、自動検出ツールを調達する必要性を評価します。検出ツールの投資決定は、正確な分析のためにデータに対する全体的な信頼度を高める必要性に基づいている必要があります。アプリケーションポートフォリオの up-to-date ビューを維持するには、ワークロード検出専用のツールを使用することをお勧めします。
- 検出ツールのデプロイ — 該当する場合は、検出ツールを調達、インストール、設定し、ターゲットシステムへのロールアウト計画を作成します。すべてのターゲットシステムに 2 週間のプログラムによるデータ収集を行うことで、この段階の結果を達成するのに十分なデータが得られます。ただし、出力を絞り込むには、後の段階で継続的なデータ収集が必要です。
- 総所有コスト (TCO) データの収集 — 収集したデータを使用して TCO レポートを作成および更新し、方向性のあるビジネスケースを作成します。詳細については、「ベストプラクティス」セクションを参照してください。
- アプリケーション合理化モデルを使用する — 移行のためのベースアプリケーション合理化モデルを確立または採用します。6 R 決定ツリーに基づいて、主要なアプリケーション属性の選択、優先

順位付けの重み付け、初期 R タイプ (リホスト、リプラットフォーム、リファクタリング (リアーキテクト)、再購入、保持、廃止) を含めます。

- 初期移行候補の特定 — AWS 基盤を確立または拡張し、経験を積むために今すぐ移動できるアプリケーションは何ですか？ この段階では、モデルは依存関係のレベルが低い単純なワークロード (ゼロ 3 など) を優先する必要があります。
- 継続的な評価の計画 – 優先順位の高いワークロードの詳細な評価など、次のポートフォリオ評価アクティビティを計画します。
- コミュニケーションの計画 — ステークホルダーのコミュニケーション計画または頻度とスコープ制御メカニズムを確立します。移行プログラムの進行に伴ってスコープが変更されることは正常です。ポートフォリオデータに関する信頼できる情報源が 1 つあること、および範囲の変更が追跡、評価、伝達されていることを確認します。

結果

- 文書化されたビジネス推進要因、成果、目標、技術指針。
- アプリケーションとインフラストラクチャの初期インベントリ、および特定されたデータギャップ。これは、さらに段階的に反復および改良されるポートフォリオの初期ビューです。
- 方向性のあるビジネスケースと移行にかかる推定コスト。
- 初期移行候補である 3 つのアプリケーションのリスト。
- ポートフォリオ関連のアクティビティ、マイルストーン、範囲の変更に関するコミュニケーション計画。

ベストプラクティス

- ステージ目標に集中し、分析を高いレベルで維持します。データ収集にプログレッシブなアプローチを採用します。先に進む前に完全なデータセットを待たないでください。
- 分析の中断は避けてください。データギャップの特定と、そのギャップを埋めるためのアクションの促進に焦点を当てます。
- 特殊な検出ツールを調達します。通常、自動ツールを通じて取得されるプログラムデータは、信頼度が高いため、文書、静的データ、組織の知識よりも優先される必要があります。
- 特定された利害関係者と協力して、ブロッカーを削除します。
- アプリケーションポートフォリオ評価ワークストリームにシングルスレッドリーダーを割り当てます。

- 方向性のあるビジネスケースには [Migration Evaluator](#) を使用することを検討してください。または、TCO と [ビジネスケース分析](#) のための AWS パートナーネットワークのツールとサービスをご覧ください。
- ビジネス成果の加速に役立つ [AWS プロフェッショナルサービス](#) と [AWS パートナー](#) を検討してください。

優先順位付けされたアプリケーション評価

最初のアプリケーション移行候補が特定されると、これらのアプリケーションの詳細な評価により、クラウド基盤の設計と実装が可能になり、移行の成果が加速されます。これらの基盤が既に存在する場合、アプリケーション評価は移行要件を満たすためのターゲット環境のさらなる開発に役立ちます。この段階では、ターゲットアーキテクチャ設計を作成し、信頼とエクスペリエンスを得るために今すぐ移行できる優先アプリケーションの移行戦略を定義するのに十分なデータを提供します。このステージの出力は、セキュリティ、移行、ランディングゾーンなどの他のプログラムワークストリームに直接フィードされ、実装されます。詳細については、[「組織を動員して大規模な移行を加速する」](#) を参照してください。

前のステージと同様に、主要な利害関係者を特定することは、データ要件を理解するのに役立ちます。通常、ビジネスユニットリードとシニアマネージャー、アプリケーションオーナー、アプリケーションアーキテクトとエンタープライズアーキテクト、移行リードとプラットフォームリードが関係します。

ヒント：詳細とガイドンスについては、[AWS クラウド移行用のアプリケーションポートフォリオ評価ガイド](#) の関連セクションを参照してください。

大まかな目標とアクション

- 優先順位付けされたアプリケーションの確認 — 詳細に分析されるアプリケーションのリストのベースラインを確立します。を高速化するには time-to-value。このリストは、3~5 個のアプリケーションの範囲に保持することをお勧めします。
- 利害関係者の特定 — これらのアプリケーションの移行の影響を受ける人、および恩恵を受ける人。これらの利害関係者が優先アプリケーションの詳細な分析の一部であることを確認します。
- 詳細なアプリケーション評価を作成する — 優先順位付けされたアプリケーションの現在のアーキテクチャとテクノロジー、戦略的ロードマップ、アプリケーションのライフサイクル、運用、セキュリティ、依存関係、リスク、問題を徹底的に調査します。このアプリケーションの現在の理解に対する信頼度はどのくらいですか？

- 最初の AWS 設計のマッピング — ターゲットアーキテクチャとテクノロジーの選択、アーキテクチャの決定とパターン、ライセンス、セキュリティ、運用、機能、非機能の要件を含めます。
- クラウドにおけるこのアプリケーションのアーキテクチャと、そこでの運用方法
- この設計を実装して運用できますか？
- クラウド基盤をデプロイするか、拡張する必要がありますか？

現在のクラウド導入レベルによっては、これらのアプリケーションが最初のクラウドデプロイを表し、より広範なプラットフォームの決定がまだ行われていないか、より広範な移行プログラムが確立されていない場合、完全な設計は達成できない場合があります。ただし、ターゲットアーキテクチャを設計するプロセスは、基本的な要件と現在のギャップまたはブロッカーを明らかにし、実行する必要があるアクションを明確にします。

- 移行戦略とパターン — 推奨されるアプローチと利用可能な自動化、移行ツールと手法、カットオーバーに関する考慮事項を評価します。推奨される移行アプローチは何ですか？ 再利用可能なパターンとして文書化できますか？ どのような移行ツールを利用できますか？ 高レベルのカットオーバーアクティビティとは
- これらのアプリケーションの実行レートを見積もる – AWS でこれらのアプリケーションを実行するときに、過去のパフォーマンスデータと使用可能なツールを使用してコストを予測します。これは予測可能なワークロードですか？ 特定された使用パターンはありますか？ 移行に必要な労力は何か？

結果

- 優先順位付けされたアプリケーションの検証済みリスト
- 特定されたアプリケーション移行ステークホルダーのリスト
- 文書化された現在の状態アーキテクチャ
- 移行候補に関する文書化された初期ターゲットアーキテクチャと移行戦略
- 特定された移行パターンとツール
- セキュリティ、AWS インフラストラクチャ、運用などの文書化されたプラットフォーム要件
- 移行計画の入力として文書化されたカットオーバーに関する考慮事項
- 推定実行レート

ベストプラクティス

- 組織で定義されているアーキテクチャパターンを再利用します。
- これらのアプリケーションのアーキテクチャ上の決定を、その後の詳細な評価で再利用できるパターンとして文書化します。
- 主要な依存関係を特定し、対処します。このアプリケーションがクラウドに移行できない原因は何ですか？
- [AWS Well-Architected](#) と [セキュリティのベストプラクティスを参照してください](#)。
- [AWS 料金計算ツール](#) を参照して、アーキテクチャソリューションのコストを見積もります。
- 移行を早く開始すればするほど、データギャップがより早く明確になります。ポートフォリオ評価の次の段階を実行しながら、優先順位付けされたアプリケーションを移行する計画を立てます。

ポートフォリオ分析と移行計画

このステージでは、ポートフォリオレベルのビューを繰り返し、データギャップを埋め、より多くのデータを取得して、ポートフォリオ全体の信頼性の高い移行ウェブプランを作成することに重点を置いています。

このステージの利害関係者は通常、前の 2 つのステージを混在させます。これには、CxOs およびの上級リーダー、移行チーム、プラットフォームチーム、IT アーキテクト、エンタープライズアーキテクトが含まれます。重要なのは、反復と改良を通じてポートフォリオレベルのデータ忠実度を高めることです。

ヒント： 詳細とガイドランスについては、[AWS クラウド移行のアプリケーションポートフォリオ評価ガイド](#)の関連セクションを参照してください。

大まかな目標とアクション

- アプリケーションポートフォリオと関連インフラストラクチャのベースラインを確立する – [検出の加速と初期計画](#) 段階から構築されたポートフォリオレベルのデータを反復して、ギャップを埋め、アプリケーションポートフォリオ全体の高レベルビューを生成します。この段階では、application-to-infrastructure マッピング、使用状況データ、アプリケーションメタデータ属性を絞り込むことが重要です。これらの属性には、所有権、重要度、各アプリケーションのプライマリ関数が含まれます。
- 依存関係データを取得して分析する (通常は特殊な検出ツールを使用) — アプリケーションを検証し、移行ウェブプランの作成を支援するために、この段階では、信頼性の高いアプリケーション

依存データが鍵となります。依存関係データには、システム間の通信の量や頻度などの通信データや、運用上の考慮事項などの非技術的な依存関係が含まれます。これらの依存関係によって、同時に移動する必要があるアプリケーションと、異なる場所から操作できるアプリケーションが決まります。

- コンプライアンスと規制要件の特定と検証 — フレームワーク、ルール、証拠、およびドキュメントの要件の特定と検証。
- 仮定を事実に変換する — 前の段階ではどのくらい引き受けられたか。この段階では、前提条件の数を最小限に抑えることが重要です。
- 移行ポートフォリオ合理化モデルのベースラインを確立する – 前のステージ (アプリケーションの優先順位付け基準や 6 R 決定ツリーなど) からモデルを反復処理します。モデルをアプリケーションポートフォリオ全体に適用して検証します。
- 測定可能なビジネス成果の文書化 — 移行の波をビジネス目標に合わせるには、各移行の波におけるビジネス成果とそれに関連する主要な主要指標 (KPI) を特定します。
- 方向性のあるビジネスケースの進化 — ベンチマークを実際の使用率とコストデータに置き換え、更新されたウェーブプランに合わせて移行コストを絞り込みます。コスト削減、IT 生産性の向上、耐障害性の向上、俊敏性の向上など、期待される各ビジネス成果から期待される価値を最大限に引き出すようにカバレッジを拡大します。
- 重要な日付の文書化と伝達 — 魅力的なイベント (データセンターの終了日、契約、ライセンス契約の更新など)、アプリケーションのリリースサイクル、回避すべき移行日、テクノロジーの更新サイクル、人員の可用性を文書化して伝達します。
- ウェーブプランニングのコストとリスクを分析する — どの程度の並列変更をサポートまたは許容できますか？ 人材の要件、リスクの特定と軽減、重要度、影響を分析します。
- スキル要件の特定 — クラウド内のさまざまなワークロードタイプをサポートする準備状況はどの程度と予測されていますか？ 移行ウェーブプランは、計画された準備状況と一致していますか？ サポートチームはウェーブプランの要件を満たすことができますか？
- ドキュメント内部プロセス – 変更管理、サービス管理、アーキテクチャレビューボード、リスク評価、承認ワークフローなど、クラウド移行に影響する現在のプロセスに関する情報をドキュメント化します。
- 移行ウェーブプランの作成 – ウェーブプランを作成するには、このリストで前述したすべての要素を組み合わせます。ポートフォリオに優先順位基準を適用し、依存関係を分析してアプリケーションの波を作成します。プラットフォームと移行準備を移行ウェーブプランに組み込みます。AWS インフラストラクチャとサービスの実装にはどのくらいの時間がかかりますか？ セキュリティと運用の準備には何が必要ですか？ ウェーブ期間にはどのような影響がありますか？ 移行ツールの実装にはどれくらいの時間がかかりますか？ ネットワークとシステムの使用状況を考慮

して、データのレプリケートにはどのくらいの時間がかかりますか？ カットオーバーウィンドウとはロールバックにはどれくらいの時間がかかりますか？

- ワークストリームの更新 — ポートフォリオと詳細なアプリケーション評価データを移行およびランディングゾーンのワークストリームにフィードするプロセスを確立します。これらのワークストリームがデータ要件を明確に概説していることを確認します。

結果

- 忠実度の高いアプリケーションとインフラストラクチャのインベントリ
- 各アプリケーションの高レベル移行戦略
- 詳細なビジネスケース
- 信頼性の高い移行ウェーブプラン

ベストプラクティス

- 移行ウェーブプランでアプリケーションが均等に分散されていることを確認します。ブロッカーを引き起こしたり、移行を遅らせたりする可能性のある複雑さが蓄積されないように、重要度と複雑さを考慮してください。
- 最初の2つのウェーブで、重要でないシンプルなアプリケーションを優先します。
- 優先順位、依存関係、ビジネス推進要因を組み合わせ、ウェーブプランを繰り返すことに重点を置きます。
- ウェーブプランを作成する際には、クラウドインフラストラクチャ、セキュリティ、運用準備状況(スキルを含む)を考慮します。
- 移行ウェーブの長さ、通常は4~8週間がアプリケーションジャーニーの概要になるようにウェーブプランを作成します。各ウェーブは以下をカバーする必要があります。
 - 詳細な評価
 - 移行の準備状況
 - インフラストラクチャの構築とテスト
 - データ転送
 - ウェーブ内のアプリケーションのカットオーバー
 - ウェーブクロージャ(学習した教訓、移行後の問題の解決など)

デフォルトのウェブ構造を定義して使用し、詳細な評価、設計、実装、テスト、カットオーバー、検証を含む移行[ファクトリモデル](#)を適用します。

継続的な評価と改善

移行ウェブプランを実装するための移行プログラムが確立されると、アプリケーションポートフォリオ評価は、ポートフォリオデータの継続的な反復と各ウェブの詳細な評価に焦点を当てます。さらに、ワークロードが移行されると、最適化とモダナイゼーションについてさらに評価できます。このステージでは、アプリケーションとインフラストラクチャの詳細を収集して、ターゲットアーキテクチャとテクノロジーの選択を検証します。また、セキュリティ、運用、クラウドインフラストラクチャなど、各移行ウェブの実装設計や移行カットオーバー計画に変換できる特定のプラットフォーム要件の概説にも重点を置いています。

ヒント：詳細とガイドランスについては、[AWS クラウド移行用のアプリケーションポートフォリオ評価ガイド](#)の関連セクションを参照してください。

大まかな目標とアクション

- アプリケーション評価 — 移行ウェブに相当する詳細なアプリケーション評価をグループ化します。アプリケーションの波ごとに、「[優先順位付けされたアプリケーションの評価](#)」セクションで定義されているのと同じ目標とアクションに従ってください。
- アプリケーションの最適化とモダナイゼーションの評価 — 技術的負債、新しいビジネス要件、使用状況とコストの分析、ベストプラクティス、変革パターン、業界の傾向、問題点、運用効率に対処します。クラウドで実行されているこのアプリケーションについて何を学びましたか？どのような[新しい AWS サービス](#)がリリースされましたか？このアプリケーションで使用できるアーキテクチャは何ですか？これらのアーキテクチャにはどのような利点がありますか？
- ビジネスケースの進化と追跡 — ステークホルダーのサポートを維持し、勢いを維持するために、ベースラインの詳細なビジネスケースに対して達成されたメリットを追跡します。また、ケースを拡大して、さらなるモダナイゼーションを含めて、回復力と俊敏性の向上から価値を引き出すこともできます。新しく取得した移行後の使用状況データを使用して、より深いコスト最適化に関する情報を提供し、リーダーシップにプログラムへの継続的な投資を優先させる基盤を提供します。
- 最適化と進化 — 最適化とポートフォリオの進化のために、ポートフォリオ合理化モデルを繰り返して拡張します。

結果

移行の結果は次のとおりです。

- ウェーブごとに検証済みの移行範囲
- 特定の移行ウェーブにおけるアプリケーションの文書化されたターゲットアーキテクチャと移行戦略
- 識別および検証された移行パターンとツール
- セキュリティ、AWS インフラストラクチャ、運用、各ウェーブの移行カットオーバーに関する考慮事項などの文書化されたプラットフォーム要件

最適化の結果は次のとおりです。

- ポートフォリオ合理化モデルとビジネス成果
- 優先順位付けすべきアプリケーションなど、さらなる最適化とモダナイゼーションが提供する追加価値を明確にする、改良されたビジネスケース。
- アーキテクチャとテクノロジーの変更案と期待されるメリット
- セキュリティ、AWS インフラストラクチャ、運用などのプラットフォーム要件
- 実装計画

ベストプラクティス

- 組織で定義されているアーキテクチャパターンを再利用します。[AWS Service Catalog](#) を使用して、組織が AWS での使用を承認した IT サービスのカタログを作成および管理することを検討してください。
- 再利用可能なパターンに変換できるアーキテクチャとテクノロジーの決定を文書化します。
- 主要な依存関係を特定します。このアプリケーションがクラウドに移行できない原因は何ですか？このアプリケーションが AWS に移行した後に最適化またはモダナイズされない原因は何ですか？
- [AWS Well-Architected](#) と [セキュリティのベストプラクティスを参照してください](#)。
- 移行、最適化、モダナイゼーションのアクティビティをビジネス成果に合わせる。
- 進化するビジネスケースを維持します。プログラムを運営するための基盤として、メリットの実現を追跡します。
- 進化するビジネスドライバーのコンテキストで、アプリケーションポートフォリオの長期的な戦略的見解を検討します。

次のステップ

- クラウドジャーニーにおける組織の状況に合ったアプリケーションポートフォリオ評価ステージを特定します。
- [アプリケーションポートフォリオ評価ガイドの使用](#)を開始します。

リソース

ガイドと戦略

- [「AWS クラウド移行のアプリケーションポートフォリオ評価ガイド」](#)
- [移行促進プログラム](#)
- [Mobilize your organization to accelerate large-scale migrations](#)

支援

- [AWS プロフェッショナルサービス](#)
- [AWS Migration and Modernization ソフトウェアパートナー](#)

ツール

- [「Migration Evaluator」](#)
- [「検出、計画、推奨の移行ツール」](#)
- [ビジネスケース分析移行ツール](#)
- [AWS 料金/TCO ツール](#)
- [AWS Migration Hub](#)

用語集

- [移行とモダナイゼーションの用語の定義](#)

ドキュメント履歴

次の表に、この戦略の重要な変更点を示します。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#) をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
二	第 1 ステージの名前を Discovery アクセラレーションと初期計画に変更し、図を更新し、 リソースのリスト を更新しました。	2024 年 5 月 8 日
二	初版発行	2021 年 11 月 12 日

AWS 規範的ガイドの用語集

以下は、AWS 規範的ガイドが提供する戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

数字

7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための 7 つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが 2011 年に特定した 5 Rs に基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行します。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) – アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するためある程度の最適化を導入します。例: オンプレミスの Oracle データベースを Oracle 用 Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行します AWS クラウド。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: 顧客関係管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行します。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: オンプレミスの Oracle データベースをの EC2 インスタンス上の Oracle に移行します AWS クラウド。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) – 新しいハードウェアを購入したり、アプリケーションを書き換えたり、既存の運用を変更したりすることなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。オンプレミスプラットフォームから同じプラットフォームのクラウドサービスにサーバーを移行します。例: の移行 Microsoft Hyper-V アプリケーション AWS。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したいアプリケーション、およびそれらに移行するためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。
- 使用停止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

A

ABAC

[「属性ベースのアクセスコントロール」](#)を参照してください。

抽象化されたサービス

[「マネージドサービス」](#)を参照してください。

ACID

[不可分性、一貫性、分離性、耐久性](#)を参照してください。

アクティブ - アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。アクティブ [/パッシブ移行](#) よりも柔軟性がありますが、より多くの作業が必要です。

アクティブ - パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させながら、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間、接続しているアプリケーションからのトランザクションをソースデータベースのみで処理するデータベース移行の方法。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

集計関数

行のグループを操作し、グループの単一の戻り値を計算するSQL関数。集計関数の例には、SUMや MAX などが含まれます。

AI

[「人工知能」](#)を参照してください。

AIOps

[「人工知能オペレーション」](#)を参照してください。

匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

アンチパターン

繰り返し起こる問題に対して頻繁に用いられる解決策で、その解決策が逆効果であったり、効果がなかったり、代替案よりも効果が低かったりするもの。

アプリケーションコントロール

マルウェアからシステムを保護するために承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、[ポートフォリオの検出と分析プロセス](#)の需要要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「[人工知能 \(AI\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

人工知能オペレーション (AIOps)

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。移行戦略での AWS AIOps の使用方法の詳細については、「[オペレーション統合ガイド](#)」を参照してください。

非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

アトミック性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID)

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

属性ベースのアクセスコントロール (ABAC)

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、AWS Identity and Access Management (IAM) ドキュメントの「[for ABAC AWS](#)」を参照してください。

信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリーバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

アベイラビリティゾーン

他のアベイラビリティゾーンの障害から AWS リージョン 隔離され、同じリージョン内の他のアベイラビリティゾーンへの低コストで低レイテンシーのネットワーク接続を提供する 内の別の場所。

AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)

組織がクラウドに正常に移行するための効率的で効果的な計画を立て AWS ののに役立つ、からのガイドラインとベストプラクティスのフレームワークです。AWS CAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用という 6 つの重点分野にガイダンスを編成しています。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、AWS CAF は、クラウド導入を成功させるための組織の準備に役立つ人材開発、トレーニング、コミュニケーションに関するガイダンスを提供します。詳細については、[AWS CAFウェブサイト](#)と[AWS CAFホワイトペーパー](#)を参照してください。

AWS ワークロード認定フレームワーク (AWS WQF)

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業の見積もりを提供するツール。AWS WQF は AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) に含まれています。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

B

不正なボット

個人や組織に混乱を与えたり、損害を与えたりすることを意図した[ボット](#)。

BCP

[事業継続計画](#)を参照してください。

動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective で動作グラフを使用して、失敗したログオン試行、不審なAPI呼び出し、および同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントの [Data in a behavior graph](#) を参照してください。

ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。 [エンディアンネス](#) も参照してください。

二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの一つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

ブルー/グリーンデプロイ

2 つの異なる同一の環境を作成するデプロイ戦略。現在のアプリケーションバージョンは 1 つの環境 (青) で実行し、新しいアプリケーションバージョンは別の環境 (緑) で実行します。この戦略は、最小限の影響で迅速にロールバックするのに役立ちます。

ボット

インターネット経由で自動タスクを実行し、人間のアクティビティややり取りをシミュレートするソフトウェアアプリケーション。インターネット上の情報のインデックスを作成するウェブクロウラーなど、一部のボットは有用または有益です。悪質なボットと呼ばれる他のボットの中には、個人や組織に混乱を与えたり、損害を与えたりすることを意図しているものがあります。

ボットネット

[マルウェア](#) に感染し、[ボット](#) のヘルダーまたはボットオペレーターとして知られる、単一の当事者によって管理されているボットのネットワーク。ボットは、ボットとその影響をスケールするための最もよく知られているメカニズムです。

ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発した

り、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたなら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、「[About branches](#) (GitHub documentation)」を参照してください。

ブレイクグラスアクセス

例外的な状況では、承認されたプロセスを通じて、ユーザーが AWS アカウント 通常アクセス許可を持たない にすばやくアクセスできるようにします。詳細については、Well-Architected ガイドの「[ブレイクグラスプロセスの実装](#)」インジケータ AWS を参照してください。

ブラウンフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウンフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略と[グリーンフィールド](#)戦略を融合させることもできます。

バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、ホワイトペーパー [AWSでのコンテナ化されたマイクロサービスの実行](#) の [ビジネス機能を中心に組織化](#) セクションを参照してください。

事業継続計画 (BCP)

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

C

CAF

[AWS 「クラウド導入フレームワーク」](#)を参照してください。

Canary デプロイ

エンドユーザーへのバージョンのスローリリースと増分リリース。確信できたら、新しいバージョンをデプロイし、現在のバージョン全体を置き換えます。

CCoE

[「Cloud Center of Excellence」](#) を参照してください。

CDC

[「変更データキャプチャ」](#) を参照してください。

変更データキャプチャ (CDC)

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、同期を維持するために、ターゲットシステムの変更の監査やレプリケーションなど、さまざまな目的で使用できます。

カオスエンジニアリング

障害や破壊的なイベントを意図的に導入して、システムの耐障害性をテストする。[AWS Fault Injection Service \(AWS FIS \)](#) を使用して、AWS ワークロードにストレスを与え、その応答を評価する実験を実行できます。

CI/CD

[「継続的インテグレーションと継続的デリバリー」](#) を参照してください。

分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

クライアント側の暗号化

ターゲットがデータ AWS のサービスを受信する前に、ローカルでデータを暗号化します。

Cloud Center of Excellence (CCoE)

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログ [CCoE の投稿](#) を参照してください。

クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、一般的に [エッジコンピューティング](#) テクノロジーに接続されています。

クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、[「クラウド運用モデルの構築」](#)を参照してください。

導入のクラウドステージ

組織は通常、に移行する際に次の 4 つのフェーズを実行します AWS クラウド。

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基盤 — クラウド導入を拡大するための基本的な投資 (ランディングゾーンの作成、 の定義 CCoE、運用モデルの確立など)
- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログのブログ記事 [「クラウドファーストへのジャーニー」](#)と [「導入のステージ」](#)で Stephen Orban によって定義されています。移行戦略とどのように関連しているかについては、AWS [「移行準備ガイド」](#)を参照してください。

CMDB

[「設定管理データベース」](#)を参照してください。

コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには以下が含まれます。GitHub or Bitbucket Cloud。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサービスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必要があり、バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

コンピュータビジョン (CV)

機械学習を使用してデジタルイメージやビデオなどのビジュアル形式から情報を分析および抽出する [AI](#) の分野。例えば、はオンプレミスのカメラネットワークに CV を追加するデバイス AWS Panorama を提供し、Amazon SageMaker AI は CV のイメージ処理アルゴリズムを提供します。

設定ドリフト

ワークロードの場合、設定は想定した状態から変化します。これにより、ワークロードが非標準になる可能性があり、通常は段階的で意図的ではありません。

設定管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、移行のポートフォリオ検出および分析段階で CMDB のデータを使用します。

コンフォーマンスパック

コンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズするためにアセンブルできる AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。YAML テンプレートを使用して、コンフォーマンスパックを AWS アカウント とリージョン、または組織全体の単一のエンティティとしてデプロイできます。詳細については、AWS Config ドキュメントの「[コンフォーマンスパック](#)」を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番稼働の各段階を自動化するプロセス。CI/CD is commonly described as a pipeline. CI/CDは、プロセスの自動化、生産性の向上、コード品質の向上、迅速な提供に役立ちます。詳細については、「[継続的デリバリーの利点](#)」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「[継続的デリバリーと継続的なデプロイ](#)」を参照してください。

CV

[「コンピュータビジョン」](#) を参照してください。

D

保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。詳細については、[データ分類](#)を参照してください。

データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

データメッシュ

一元化された管理とガバナンスにより、分散され分散されたデータ所有権を提供するアーキテクチャフレームワーク。

データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。でデータ最小化を実践 AWS クラウドすることで、プライバシーリスク、コスト、分析のカーボンフットプリントを削減できます。

データ境界

AWS 環境内の一連の予防ガードレール。信頼できる ID のみが、期待されるネットワークから信頼できるリソースにアクセスしていることを確認できます。詳細については、「[でのデータ境界の構築 AWS](#)」を参照してください。

データの前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

データ件名

データを収集、処理している個人。

データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。データウェアハウスには、通常、大量の履歴データが含まれており、クエリや分析に使用されます。

データベース定義言語 (DDL)

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

データベース操作言語 (DML)

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

DDL

[「データベース定義言語」](#)を参照してください。

ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせる。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

ディープラーニング

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

defense-in-depth

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリティの手法。この戦略を採用するときは AWS、AWS Organizations 構造の異なるレイヤーに複数のコントロールを追加して、リソースの安全性を確保します。例えば、アプローチでは defense-in-depth、多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

委任管理者

では AWS Organizations、互換性のあるサービスが AWS メンバーアカウントを登録して組織のアカウントを管理し、そのサービスのアクセス許可を管理できます。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、AWS Organizations ドキュメントの[AWS Organizationsで利用できるサービス](#)を参照してください。

デプロイ

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

開発環境

[「環境」](#)を参照してください。

検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Detective controls](#)を参照してください。

開発値ストリームマッピング (DVSM)

ソフトウェア開発ライフサイクルの速度と品質に悪影響を及ぼす制約を特定して優先順位を付けるために使用されるプロセス。は、もともと効率的な製造プラクティスのために設計されたバリューストリームマッピングプロセスDVSMを拡張します。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

ディメンションテーブル

[スタースキーマ](#)では、ファクトテーブル内の量的データに関するデータ属性を含む小さなテーブル。ディメンションテーブル属性は通常、テキストフィールドまたはテキストのように動作する離散数値です。これらの属性は、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けによく使用されます。

ディザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

ディザスタリカバリ (DR)

[災害](#)によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるための戦略とプロセス。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[でのワークロードのディザスタリカバリ AWS: クラウドでのリカバリ](#)」を参照してください。

DML

[「データベース操作言語」](#)を参照してください。

ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計:ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み) で紹介されています (ボストン: Addison-Wesley Professional、2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使用する方法については、[「従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスをコンテナと Amazon API Gateway を使用して段階的にモダナイズする」](#)を参照してください。

DR

[「ディザスタリカバリ」](#)を参照してください。

ドリフト検出

ベースライン設定からの偏差の追跡。例えば、AWS CloudFormation を使用して[システムリソースのドリフトを検出](#)したり、を使用して AWS Control Tower ガバナンス要件への準拠に影響を与える可能性のある[ランディングゾーンの変更を検出](#)したりできます。

DVSM

[「開発値ストリームマッピング」](#)を参照してください。

E

EDA

[「探索的なデータ分析」](#)を参照してください。

EDI

[「電子データ交換」](#)を参照してください。

エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。[クラウドコンピューティング](#)と比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を短縮できます。

電子データ交換 (EDI)

組織間のビジネスドキュメントの自動交換。詳細については、[「電子データ交換とは」](#)を参照してください。

暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティングプロセス。

暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されます。

エンドポイント

[「サービスエンドポイント」](#)を参照してください。

エンドポイントサービス

仮想プライベートクラウド (VPC) でホストして他のユーザーと共有できるサービス。を使用してエンドポイントサービスを作成し AWS PrivateLink、他の AWS アカウント または AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルにアクセス許可を付与できます。これらのアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイスエンドポイントを作成することでVPC、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) ドキュメントの[「エンドポイントサービスの作成」](#)を参照してください。

エンタープライズリソース計画 (ERP)

エンタープライズの主要なビジネスプロセス (会計、[MES](#)、プロジェクト管理など) を自動化および管理するシステム。

エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、AWS Key Management Service (AWS KMS) ドキュメントの「[エンベロープ暗号化](#)」を参照してください。

環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- 開発環境 — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが使用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- 下位環境 — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- 本番環境 — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- 上位環境 — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。例えば、AWS CAF セキュリティエピックには、アイデンティティとアクセスの管理、検出コントロール、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。AWS 移行戦略のエピックの詳細については、[プログラム実装ガイド](#) を参照してください。

ERP

[「エンタープライズリソース計画」](#) を参照してください。

探索的なデータ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。データを収集または集計し、初期調査を実行してパターンを検索し、異常を検出して、仮定を確認します。EDAは、サマリー統計を計算し、データの視覚化を作成することによって実行されます。

F

ファクトテーブル

[星スキーマ](#)の中央テーブル。事業運営に関する量的データを保存します。通常、ファクトテーブルには、メジャーを含む列とディメンションテーブルへの外部キーを含む列の2つのタイプの列が含まれます。

フェイルファスト

開発ライフサイクルを短縮するために頻繁で段階的なテストを使用する哲学。これはアジャイルアプローチの重要な部分です。

障害分離の境界

では AWS クラウド、障害の影響を制限し、ワークロードの耐障害性を向上させるアベイラビリティゾーン AWS リージョン、コントロールプレーン、データプレーンなどの境界です。詳細については、[AWS 「障害分離境界」](#)を参照してください。

機能ブランチ

[「ブランチ」](#)を参照してください。

特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Descriptions (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアとして表されます。詳細については、[「を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS」](#)を参照してください。

機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021年」、「5月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

数ショットプロンプト

同様のタスクを実行するように依頼する前に、タスクと必要な出力を示す[LLM](#)少数の例を に提供します。この手法はコンテキスト内学習のアプリケーションであり、モデルはプロンプトに埋め

込まれた例(ショット)から学習します。特定のフォーマット、推論、またはドメインの知識を必要とするタスクには、数ショットプロンプトが効果的です。[「ゼロショットプロンプト」](#)も参照してください。

FGAC

[「きめ細かなアクセスコントロール」](#)を参照してください。

きめ細かなアクセスコントロール (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

フラッシュカット移行

段階的なアプローチを使用するのではなく、[変更データキャプチャ](#)による継続的なデータレプリケーションを使用して、可能な限り短時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

FM

[「基盤モデル」](#)を参照してください。

基盤モデル (FM)

一般化されたデータやラベル付けされていないデータの大規模なデータセットでトレーニングされている大規模な深層学習ニューラルネットワーク。FMsは、言語の理解、テキストや画像の生成、自然言語での会話など、さまざまな一般的なタスクを実行できます。詳細については、[「基礎モデルとは」](#)を参照してください。

G

生成 AI

大量のデータでトレーニングされ、シンプルなテキストプロンプトを使用してイメージ、動画、テキスト、オーディオなどの新しいコンテンツやアーティファクトを作成できる [AI](#) モデルのサブセット。詳細については、[「生成 AI とは」](#)を参照してください。

ジオブロッキング

[地理的制限](#)を参照してください。

地理的制限 (ジオブロッキング)

Amazon では CloudFront、特定の国のユーザーがコンテンツディストリビューションにアクセスできないようにするオプションです。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは

禁止リストを使って指定します。詳細については、CloudFront ドキュメントの「[コンテンツの地理的ディストリビューションの制限](#)」を参照してください。

Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローはレガシーと見なされ、[トランクベースのワークフロー](#)は最新の推奨アプローチです。

ゴールデンイメージ

システムまたはソフトウェアの新しいインスタンスをデプロイするためのテンプレートとして使用されるシステムまたはソフトウェアのスナップショット。例えば、製造では、ゴールデンイメージを使用して複数のデバイスにソフトウェアをプロビジョニングし、デバイスの製造オペレーションの速度、スケーラビリティ、生産性を向上させることができます。

グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名 [ブラウンフィールド](#)) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

ガードレール

組織単位 () 全体のリソース、ポリシー、コンプライアンスを管理するのに役立つ高レベルのルール OUs。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは AWS Config、Amazon AWS Security Hub、GuardDuty、AWS Trusted Advisor Amazon Inspector、およびカスタム AWS Lambda チェックを使用して実装されます。

H

HA

[「高可用性」](#)を参照してください。

異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。[AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCT を提供します。](#)

ハイアベイラビリティ (HA)

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

ヒストリアンのモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーションテクノロジー (OT) システムをモダナイズし、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

ホールドアウトデータ

[機械学習](#) モデルのトレーニングに使用されるデータセットから保留される、ラベル付きの履歴データの一部。ホールドアウトデータを使用してモデル予測をホールドアウトデータと比較することで、モデルのパフォーマンスを評価できます。

同種データベースの移行

ソースデータベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行します。同種間移行は、通常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。

ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。緊急性のため、通常、修正は一般的な DevOps リリースワークフローの外部で行われます。

ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

I

laC

[Infrastructure as Code](#) を参照してください。

ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義する 1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均 CPU およびメモリ使用量が 5~20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

IIoT

[「産業モノのインターネット」](#) を参照してください。

イミュータブルインフラストラクチャ

既存のインフラストラクチャを更新、パッチ適用、または変更するのではなく、本番ワークロードに新しいインフラストラクチャをデプロイするモデル。イミュータブルなインフラストラクチャは、本質的に [ミュータブルなインフラストラクチャ](#) よりも一貫性、信頼性、予測性が高くなります。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの [「イミュータブルインフラストラクチャを使用したデプロイ」](#) のベストプラクティスを参照してください。

インバウンド (インGRESS) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション外からのネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティング VPC するです。 [AWS セキュリティリファレンスアーキテクチャ](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向インターフェイス VPCs を保護するために、インバウンド、アウトバウンド、検査を使用してネットワークアカウントを設定することをお勧めします。

I

増分移行

アプリケーションを 1 回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

インダストリー 4.0

2016 年に [Klaus Schwab](#) によって導入された用語で、接続、リアルタイムデータ、自動化、分析、AI/ML の進歩によるビジネスプロセスのモダナイゼーションを指します。

インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaC は、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

産業 IoT (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、[「産業モノのインターネット \(IIoT\) デジタルトランスフォーメーション戦略の構築」](#)を参照してください。

検査 VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、VPCs (同じまたは異なる 内 AWS リージョン)、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査VPCを管理する一元化されたです。[AWS セキュリティリファレンスアーキテクチャ](#)では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向インターフェイスVPCsを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、検査を使用してネットワークアカウントを設定することをお勧めします。

IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、[「IoT とは」](#)を参照してください。

解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、[「を使用した機械学習モデルの解釈可能性AWS」](#)を参照してください。

IoT

[「モノのインターネット」](#)を参照してください。

IT 情報ライブラリ (ITIL)

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITILは の基盤を提供しますITSM。

IT サービス管理 (ITSM)

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、[「オペレーション統合ガイド」](#)を参照してください。

ITIL

[「IT 情報ライブラリ」](#)を参照してください。

ITSM

[「IT サービス管理」](#)を参照してください。

L

ラベルベースのアクセスコントロール (LBAC)

ユーザーとデータ自体にそれぞれ明示的にセキュリティラベル値が割り当てられている、必須のアクセスコントロール (MAC) の実装。ユーザーセキュリティラベルとデータセキュリティラベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

ランディングゾーン

ランディングゾーンは、スケーラブルで安全な、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロードとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、[安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ](#)を参照してください。

大規模言語モデル (LLM)

大量のデータに基づいて事前トレーニングされた深層学習 [AI](#) モデル。LLM は、質問への回答、ドキュメントの要約、テキストの他の言語への翻訳、文の完了など、複数のタスクを実行できます。詳細については、[「とはLLMs」](#)を参照してください。

大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

LBAC

[「ラベルベースのアクセスコントロール」](#)を参照してください。

最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAMドキュメントの[「最小特権のアクセス許可を適用する」](#)を参照してください。

リフトアンドシフト

[「7R」](#)を参照してください。

リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。[エンディアンネス](#)も参照してください。

LLM

[「大規模言語モデル」](#)を参照してください。

下位環境

[「???」](#)「環境」を参照してください。

M

機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、[「機械学習」](#)を参照してください。

メインブランチ

[「ブランチ」](#)を参照してください。

マルウェア

コンピュータのセキュリティまたはプライバシーを侵害するように設計されているソフトウェア。マルウェアは、コンピュータシステムの中断、機密情報の漏洩、不正アクセスにつながる可能性があります。マルウェアの例としては、ウイルス、ワーム、ランサムウェア、トロイの木馬、スパイウェア、キーロガーなどがあります。

マネージドサービス

AWS のサービスがインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォームを AWS 運用し、ユーザーがエンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得します。Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB は、マネージドサービスの例です。これらは抽象化されたサービスとも呼ばれます。

製造実行システム (MES)

生産プロセスを追跡、モニタリング、文書化、制御するためのソフトウェアシステム。このソフトウェアシステムは、加工品を現場の完成製品に変換します。

MAP

[「移行促進プログラム」](#)を参照してください。

メカニズム

ツールを作成し、ツールの導入を推進し、調整のために結果を検査する完全なプロセス。メカニズムは、動作中にそれ自体を強化して改善するサイクルです。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの[「メカニズムの構築」](#)を参照してください。

メンバーアカウント

組織の一部である管理アカウント AWS アカウント 以外のすべて AWS Organizations。アカウントが組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

MES

[「製造実行システム」](#)を参照してください。

メッセージキューイングテレメトリトランスポート (MQTT)

リソースに制約のある IoT デバイス用の、machine-to-machine [パブリッシュ/サブスクライブ](#) パターンに基づく軽量 (M2M) 通信プロトコル。

マイクロサービス

明確に定義された上で通信APIsし、通常は小規模で自己完結型のチームが所有する、小規模で独立したサービス。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス機能、また

は購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロイ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、[AWS「サーバーレスサービスを使用したマイクロサービスの統合」](#)を参照してください。

マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量なを使用して明確に定義されたインターフェイスを介して通信しますAPIs。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケーリングできます。詳細については、「[でのマイクロサービスの実装 AWS](#)」を参照してください。

Migration Acceleration Program (MAP)

コンサルティングサポート、トレーニング、およびサービスを提供する AWS プログラムは、組織がクラウドへの移行のための強固な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立ちます。MAPには、レガシー移行を体系的に実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化するための一連のツールが含まれています。

大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリーチーム、ツール、プロセスのうち、オートメーションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、[AWS 移行戦略](#)の第3段階です。

移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、運用、ビジネスアナリストと所有者、移行エンジニア、デベロッパー、スプリントに取り組む DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの20~50%は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの[移行ファクトリーに関する解説](#)と[Cloud Migration Factory ガイド](#)を参照してください。

移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例には、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、AWS アカウントなどがあります。

移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: AWS Application Migration Service EC2を使用して Amazon への移行をリホストします。

移行ポートフォリオ評価 (MPA)

に移行するためのビジネスケースを検証するための情報を提供するオンラインツール AWS クラウド。MPAは、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイズ設定、料金設定、TCO比較、移行コスト分析) と移行計画 (アプリケーションデータ分析とデータ収集、アプリケーショングループ化、移行の優先順位付け、ウェブプランニング) を提供します。[MPA ツール](#) (ログインが必要) は、すべての AWS コンサルタントとAPNパートナーコンサルタントが無料で利用できます。

移行準備状況評価 (MRA)

を使用して、組織のクラウド準備状況に関するインサイトを取得し、長所と短所を特定し、特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス AWS CAF。詳細については、「[移行準備ガイド](#)」を参照してください。MRAは[AWS 移行戦略](#)の最初のフェーズです。

移行戦略

ワークロードを に移行するために使用するアプローチ AWS クラウド。詳細については、この用語集の「[7 Rs エントリ](#)」と「[組織を動員して大規模な移行を加速する](#)」を参照してください。

ML

[??? 「機械学習」](#) を参照してください。

モダナイゼーション

古い (レガシーまたはモノリシック) アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、「」の「[アプリケーションをモダナイズするための戦略 AWS クラウド](#)」を参照してください。

モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定され

たギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、[「」の「アプリケーションのモダナイゼーション準備状況の評価 AWS クラウド」](#)を参照してください。

モノリシックアプリケーション (モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できません。詳細については、[モノリスをマイクロサービスに分解する](#)を参照してください。

MPA

[「移行ポートフォリオ評価」](#)を参照してください。

MQTT

[「Message Queuing Telemetry Transport」](#)を参照してください。

多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス (2つ以上の結果の1つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

ミュータブルインフラストラクチャ

本番ワークロードの既存のインフラストラクチャを更新および変更するモデル。Well-Architected AWS フレームワークでは、一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、[イミュータブルインフラストラクチャ](#)をベストプラクティスとして使用することを推奨しています。

O

OAC

[「オリジンアクセスコントロール」](#)を参照してください。

OAI

[「オリジンアクセスアイデンティティ」](#)を参照してください。

OCM

[「組織の変更管理」](#)を参照してください。

オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

OI

[「オペレーションの統合」](#)を参照してください。

OLA

[「運用レベルの契約」](#)を参照してください。

オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずにターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

OPC-UA

[「オープンプロセス通信 - 統合アーキテクチャ」](#)を参照してください。

オープンプロセス通信 - 統合アーキテクチャ (OPC-UA)

産業オートメーション用の machine-to-machine (M2M) 通信プロトコル。OPC-UA は、データの暗号化、認証、認可スキームを備えた相互運用性標準を提供します。

運用レベルの契約 (OLA)

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、各サービスが相互に提供することを約束する機能的な IT グループを明確にする契約 SLA。

運用準備状況レビュー (ORR)

インシデントや潜在的な障害の理解、評価、防止、または範囲の縮小に役立つ質問のチェックリストおよび関連するベストプラクティス。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの [「運用準備状況レビュー \(ORR\)」](#) を参照してください。

運用テクノロジー (OT)

産業オペレーション、機器、インフラストラクチャを制御するために物理環境と連携するハードウェアおよびソフトウェアシステム。製造では、OT と情報技術 (IT) システムの統合が、[Industry 4.0](#) トランスフォーメーションの主な焦点です。

オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

組織の証跡

組織 AWS アカウント 内のすべてのイベント AWS CloudTrail をログに記録する、によって作成された証跡 AWS Organizations。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウントに作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、ドキュメントの「[組織の証跡の作成](#)」を参照してください。CloudTrail

組織の変更管理 (OCM)

人材、文化、リーダーシップの観点から、破壊的で重要なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCMは、変化の導入を加速し、移行問題に対処し、文化的および組織的な変化を促進することで、組織が新しいシステムや戦略の準備と移行を支援します。AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変化のスピードから、このフレームワークを人材アクセラレーションと呼びます。詳細については、[OCMガイド](#)を参照してください。

オリジンアクセスコントロール (OAC)

では CloudFront、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するためのアクセスを制限するための拡張オプションです。OACは、すべての S3 バケット、AWS KMS (SSEKMS) によるサーバー側の暗号化 AWS リージョン、および S3 バケットへの動的 PUT および DELETE リクエストをサポートします。

オリジンアクセスアイデンティティ (OAI)

では CloudFront、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセスを制限するオプションです。を使用するとOAI、は Amazon S3 が認証できるプリンシパル CloudFront を作成します。認証されたプリンシパルは、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみ S3 バケット内のコンテンツにアクセスできます。「」も参照してください。より詳細で拡張[OAC](#)されたアクセスコントロールを提供します。

ORR

[「運用準備状況レビュー」](#)を参照してください。

OT

[「運用テクノロジー」](#)を参照してください。

アウトバウンド (出力) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション内から開始されたネットワーク接続VPCを処理するです。[AWS セキュリティリファレンスアーキテクチャ](#)では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向インターフェイスVPCsを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、検査を使用してネットワークアカウントを設定することをお勧めします。

P

アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが持つことができるアクセス許可の上限を設定するためにIAMプリンシパルにアタッチされるIAM管理ポリシー。詳細については、IAMドキュメントの[「アクセス許可の境界」](#)を参照してください。

個人を特定できる情報 (PII)

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。例としては、名前、住所、連絡先情報PIIなどがあります。

PII

[個人を特定できる情報](#)を参照してください。

プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

PLC

[「プログラム可能なロジックコントローラー」](#)を参照してください。

PLM

[「製品ライフサイクル管理」](#)を参照してください。

ポリシー

アクセス許可の定義 ([アイデンティティベースのポリシー](#)を参照)、アクセス条件の指定 ([リソースベースのポリシー](#)を参照)、または の組織内のすべてのアカウントに対する最大アクセス許可の定義 AWS Organizations ([サービスコントロールポリシー](#)を参照) が可能なオブジェクト。

多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。詳細については、[マイクロサービスでのデータ永続性の有効化](#) を参照してください。

ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、「[移行準備状況ガイド](#)」を参照してください。

述語

true または を返すクエリ条件。通常は false WHERE 句にあります。

述語のプッシュダウン

転送前にクエリ内のデータをフィルタリングするデータベースクエリ最適化手法。これにより、リレーショナルデータベースから取得および処理する必要があるデータの量が減少し、クエリのパフォーマンスが向上します。

予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Preventative controls](#)を参照してください。

プリンシパル

アクションを実行し AWS、リソースにアクセスできるのエンティティ。このエンティティは通常、AWS アカウント IAM ロール、または ユーザーのルートユーザーです。詳細については、IAM ドキュメントの「[ロールの用語と概念](#)」の「プリンシパル」を参照してください。

プライバシーバイデザイン

開発プロセス全体でプライバシーを考慮するシステムエンジニアリングアプローチ。

プライベートホストゾーン

Amazon Route 53 が 1 つ以上の内のドメインとそのサブドメインのDNSクエリにどのように応答するかに関する情報を保持するコンテナVPCs。詳細については、Route 53 ドキュメントの「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

プロアクティブコントロール

非準拠のリソースのデプロイを防ぐように設計された[セキュリティコントロール](#)。これらのコントロールは、プロビジョニングされる前にリソースをスキャンします。リソースがコントロールに準拠していない場合、プロビジョニングされません。詳細については、AWS Control Tower ドキュメントの「[コントロールリファレンスガイド](#)」および「[セキュリティコントロールの実装](#)」の「[プロアクティブコントロール](#)」を参照してください。 AWS

製品ライフサイクル管理 (PLM)

設計、開発、発売から成長と成熟、辞退と削除まで、ライフサイクル全体にわたる製品のデータとプロセスの管理。

本番環境

[「環境」](#)を参照してください。

プログラム可能なロジックコントローラー (PLC)

製造では、マシンをモニタリングし、承認プロセスを自動化する、信頼性が高く、適応性の高いコンピュータです。

プロンプトの連鎖

1つの[LLM](#)プロンプトの出力を次のプロンプトの入力として使用して、より良いレスポンスを生成します。この手法は、複雑なタスクをサブタスクに分割したり、予備レスポンスを繰り返し調整または拡張したりするために使用されます。これにより、モデルのレスポンスの精度と関連性が向上し、より詳細でパーソナライズされた結果が得られます。

仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

publish/subscribe (pub/sub)

マイクロサービス間の非同期通信を可能にするパターン。スケーラビリティと応答性を向上させます。たとえば、マイクロサービスベースの [MES](#)、マイクロサービスは他のマイクロサービスがサブスクライブできるチャンネルにイベントメッセージを発行できます。システムは、公開サービスを変更せずに新しいマイクロサービスを追加できます。

Q

クエリプラン

SQL リレーショナルデータベースシステム内のデータにアクセスするために使用される手順などの一連のステップ。

クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

R

RACI マトリックス

[責任、説明責任、相談、通知 \(RACI\) を参照してください。](#)

RAG

[「取得拡張生成」](#)を参照してください。

ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

RASCI マトリックス

[責任、説明責任、相談、通知 \(RACI\) を参照してください。](#)

RCAC

[「行と列のアクセスコントロール」](#)を参照してください。

リードレプリカ

読み取り専用で使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

再構築

[「7R」](#)を参照してください。

目標復旧時点 (RPO)

最後のデータリカバリポイントからの最大許容時間です。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

目標復旧時間 (RTO)

サービスが中断から復旧までの最大許容遅延時間。

リファクタリング

[「7R」](#) を参照してください。

リージョン

地理的エリア内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョンは、耐障害性、安定性、耐障害性を提供するために、他のとは分離され、独立しています。詳細については、[AWS リージョン「アカウントで使用できるを指定する」](#) を参照してください。

回帰

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実 (平方フィートなど) に基づいて家の販売価格を予測できます。

リホスト

[「7R」](#) を参照してください。

リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

再配置

[「7R」](#) を参照してください。

プラットフォーム変更

[「7R」](#) を参照してください。

再購入

[「7R」](#) を参照してください。

回復性

中断に耐えたり、中断から回復したりするアプリケーションの機能。[高可用性](#)と[ディザスタリカバリ](#)は、回復性を計画する際の一般的な考慮事項です AWS クラウド。詳細については、[AWS クラウド「耐障害性」](#) を参照してください。

リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

責任、説明責任、相談、情報 (RACI) マトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R)、説明責任 (A)、協議 (C)、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートを含めると、マトリックスはRASCIマトリックスと呼ばれ、除外するとRACIマトリックスと呼ばれます。

レスポンスコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Responsive controls](#)を参照してください。

保持

[「7R」](#)を参照してください。

廃止

[「7R」](#)を参照してください。

取得拡張生成 (RAG)

レスポンスを生成する前に、ガトレーニングデータソースの外部にある信頼できるデータソースLLMを参照する[生成 AI](#) テクノロジー。たとえば、RAGモデルは組織のナレッジベースやカスタムデータのセマンティック検索を実行する場合があります。詳細については、「[RAG とは](#)」を参照してください。

ローテーション

攻撃者が認証情報にアクセスするのをより困難にするために、[シークレット](#)を定期的に更新するプロセス。

行と列のアクセスコントロール (RCAC)

アクセスルールが定義されている基本的で柔軟なSQL式を使用します。RCACは、行のアクセス許可と列マスクで構成されます。

RPO

「[目標復旧時点](#)」を参照してください。

RTO

[目標復旧時間](#)を参照してください。

ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

S

SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdPs) が使用するオープンスタンダード。この機能を使用すると、フェデレーテッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、ユーザーは [AWS Management Console](#) したり、AWS API オペレーションを呼び出したりできます。組織内のすべてのユーザーIAMに対して [ユーザーを作成する必要はありません](#)。2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、IAMドキュメントSAMLの「[About SAML 2.0-based federation](#)」を参照してください。

SCADA

「[監視コントロールとデータ取得](#)」を参照してください。

SCP

「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

シークレット

暗号化された形式で保存するパスワードやユーザー認証情報などの AWS Secrets Manager機密情報または制限付き情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値は、バイナリ、1つの文字列、または複数の文字列にすることができます。詳細については、[Secrets Manager ドキュメントの「Secrets Manager シークレットの内容」](#)を参照してください。

設計によるセキュリティ

開発プロセス全体でセキュリティを考慮するシステムエンジニアリングアプローチ。

セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、[予防的](#)、[検出的](#)、[応答的](#)、[プロアクティブ](#)の4つの主なタイプがあります。

セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

セキュリティ情報とイベント管理 (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) システムとセキュリティイベント管理 (SEM) システムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他のソースからデータを収集、モニタリング、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを生成します。

セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントに自動的に応答または修正するように設計された、事前定義されたプログラムされたアクション。これらの自動化は、セキュリティのベストプラクティスを実装するのに役立つ[検出的](#)または[応答的](#)な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動レスポンスアクションの例には、VPCセキュリティグループの変更、Amazon EC2インスタンスへのパッチ適用、認証情報のローテーションなどがあります。

サーバー側の暗号化

送信先で、それを受け取る AWS のサービスによるデータの暗号化。

サービスコントロールポリシー (SCP)

の組織内のすべてのアカウントのアクセス許可を一元的に制御するポリシー AWS Organizations。は、ガードレール SCPs を定義するか、管理者がユーザーまたはロールに委任できるアクションの制限を設定します。を許可リストまたは拒否リスト SCPs として使用して、許可または禁止するサービスまたはアクションを指定できます。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

サービスエンドポイント

のエントリポイント URL の AWS のサービス。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、AWS 全般のリファレンスの「[AWS のサービス エンドポイント](#)」を参照してください。

サービスレベルアグリーメント (SLA)

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

サービスレベルインジケータ (SLI)

エラー率、可用性、スループットなど、サービスのパフォーマンス側面の測定。

サービスレベルの目標 (SLO)

サービスレベルのインジケータによって測定される、サービスの正常性を表すターゲットメトリクス。

責任共有モデル

クラウドのセキュリティとコンプライアンス AWS について と共有する責任を説明するモデル。AWS はクラウドのセキュリティを担当しますが、お客様はクラウド内のセキュリティを担当します。詳細については、[責任共有モデル](#)を参照してください。

SIEM

[セキュリティ情報とイベント管理システム](#)を参照してください。

単一障害点 (SPOF)

システムを中断する可能性のある、アプリケーションの単一の重要なコンポーネントの障害。

SLA

[「サービスレベルアグリーメント」](#)を参照してください。

SLI

[「サービスレベルインジケータ」](#)を参照してください。

SLO

[「サービスレベルの目標」](#)を参照してください。

split-and-seed モデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケーリングと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、『』の[「アプリケーションをモダナイズするための段階的アプローチ AWS クラウド」](#)を参照してください。

SPOF

[単一障害点](#)を参照してください。

star スキーマ

トランザクションデータまたは測定データを保存するために 1 つの大きなファクトテーブルを使用し、データ属性を保存するために 1 つ以上の小さなディメンションテーブルを使用するデータベース組織構造。この構造は、[データウェアハウス](#)またはビジネスインテリジェンスの目的で使用するよう設計されています。

strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主にとって代わるイチジクのつるを例えています。そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として [Martin Fowler により提唱されました](#)。このパターンを適用する方法の例については、「[従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスをコンテナと Amazon API Gateway を使用して段階的にモダナイズする](#)」を参照してください。

サブネット

の IP アドレスの範囲VPC。サブネットは、1 つのアベイラビリティゾーンに存在する必要があります。

監視コントロールとデータ収集 (SCADA)

製造では、ハードウェアとソフトウェアを使用して物理アセットと生産オペレーションをモニタリングするシステム。

対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

合成テスト

ユーザーとのやり取りをシミュレートして潜在的な問題を検出したり、パフォーマンスをモニタリングしたりする方法でシステムをテストします。[Amazon Synthetics CloudWatch](#) を使用してこれらのテストを作成できます。

システムプロンプト

動作を指示LLMするために、コンテキスト、指示、またはガイドラインを に提供するための手法。システムプロンプトは、コンテキストを設定し、ユーザーとのやり取りのルールを確立するのに役立ちます。

T

tags

AWS リソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要がある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

テスト環境

[???](#)「環境」を参照してください。

トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパターンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

トランジットゲートウェイ

VPCs とオンプレミスのネットワークを相互接続するために使用できるネットワークトランジットハブ。詳細については、AWS Transit Gateway ドキュメントの「[トランジットゲートウェイとは](#)」を参照してください。

トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

信頼されたアクセス

ユーザーに代わって、AWS Organizations およびそのアカウントで組織内のタスクを実行するために指定したサービスにアクセス許可を付与します。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要なときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、ドキュメントの「[AWS Organizations を他の AWS サービスで使用する AWS Organizations](#)」を参照してください。

チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

ツーピザチーム

ピザを2つ用意できる小さな DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

U

不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の2つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。詳細については、[深層学習システムにおける不確実性の定量化](#) ガイドを参照してください。

未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

上位環境

[???](#) 「環境」を参照してください。

V

バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

VPC ピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングVPCsできる 2 つの間の接続。詳細については、Amazon VPCドキュメントの「[What is VPC peering](#)」を参照してください。

脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

W

ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

ウィンドウ関数

現在のレコードに関連する行のグループに対して計算を実行するSQL関数。ウィンドウ関数は、移動平均の計算や、現在の行の相対位置に基づく行の値へのアクセスなどのタスクの処理に役立ちます。

ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェーブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

WORM

[「書き込み 1 回」、「読み取り 多数」を参照してください。](#)

WQF

[AWS 「ワークロード認定フレームワーク」を参照してください。](#)

1 回書き、多く読み込む (WORM)

データを 1 回書き込み、データの削除や変更を防ぐストレージモデル。許可されたユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャは [イミュータブル](#) と見なされます。

Z

ゼロデイエクスプロイト

[ゼロデイ脆弱性](#) を利用する攻撃、通常はマルウェア。

ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

ゼロショットプロンプト

タスクを実行するための指示を [LLM](#) に提供しますが、そのガイドに役立つ例 (ショット) はありません。は、事前トレーニング済みの知識を使用してタスクを処理する LLM 必要があります。ゼロショットプロンプトの有効性は、タスクの複雑さとプロンプトの品質によって異なります。[「数ショットプロンプト」](#) も参照してください。

ゾンビアプリケーション

平均使用量 CPU とメモリ使用量が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。